

熊谷市で野菜を栽培する松原さん



養液栽培システム自作

経営規模に合わせ

熊谷市の松原さん、効率化図る

【埼玉】熊谷市のhachi farm（ハチファーム）代表の松原大己さん（32）は、施設野菜を中心にキュウリ、トマトなどを生産している。

以前は農業系のベンチャー企業に勤めていた松原さん。4年前の就農時

から、大規模な経営体と競うには何で勝負できるかを考え、独自の養液栽培システムを作成した。既存のシステムは大規模なものほとんど、面積や収量に応じた自分の身の丈に合ったものを使えばコストも抑えられ、作業の効率も上がると考

えた。

企業にいたころの知識を活かし、フリーソフトなどを利用してハウス内の温度、湿度、灌水などを自動で管理できるシステムを作成した。松原さんは「自分なりにできる農業の姿を見つけ、作業の省力化・効率化を進めている。安定した生産ができるのは大きい」と話す。

販路はスーパーを軸にJAや市場など。特にス

ーパー出荷では消費者の声に耳を傾けるよう心がけている。また、消費者に自分の野菜を覚えてもらいたいと「はち野菜」と名付けて販売している。農園名にもつけている。「はち」という言葉には、無限大（∞）や末広がりの（八）の意味を込め

ており、松原さんの農業に対するチャレンジ精神を表している。現在はパート8人を雇用している松原さん。自身も子育て中であることから、休暇の取りやすさを大事にしている。従業員が子どもの休みに合わせて勤務日を決められる

ようにするなど、「従業員の働きやすさも、おいしい野菜づくりの一環」と考えている。「今後も地域に密着しながら、自分にはできない農業を追求していきたい。ゆくゆくは果樹にもチャレンジしたい」と意気込みを語った。